2022年8月刊行

数理社会学会設立35周年記念出版

数理社会学事典

数理社会学会 数理社会学事典刊行委員会 編

A5判・786頁
定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30665-9

数理社会学とは、ある数学的仮定のもと演繹法によって導出された命題に調査や実験から得たデータをあてはめて検証したり、逆に経験的データに基づいて一般化した法則を見出してモデル構築したりすることにより、社会現象に説明を与えることを目的とする学問と言える。1950年代に米国で生まれ、21世紀以降益々発展し続ける本分野の中項目事典。

関連書籍

計算社会科学入門
鳥海 不二夫 編著
A5判・322頁
定価4,180円
(本体3,800円+税10%)
ISBN978-4-621-30596-6

現代の情報化社会をデータに基づき解明する「計算社会科学」を、様々な分野の第一線で活躍する研究者らが俯瞰的に解説。

教育社会学事典
日本教育社会学会 編
A5判・910頁
定価24,200円
(本体22,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30233-0

教育社会学を三部構成、全19章で解説。現代教育社会学の全体像を的確に描き出す。教育社会学の主要テーマを約300項目掲載した事典。

社会学理論応用事典
日本社会学会
理論応用事典刊行委員会 編
A5判・952頁
定価22,000円
(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30074-9

長く歴史ある社会学の主要理論約330項目を取り上げ、初学者～研究者まで幅広い読者のニーズに応える、見開き完結の中項目事典。

社会調査事典
一般社団法人 社会調査協会 編
A5判・922頁
定価22,000円
(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-08731-2

現代社会の動向を分析し、理解する上で、必要不可欠な社会調査法。その理論・手法から量的調査・質的調査まで全貌を解説する。

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版株式会社 行　FAX 03-3512-3270

注文書

数理社会学事典 定価24,200円(本体22,000円+税10%) ISBN978-4-621-30665-9 ＿＿冊

＿＿冊

お名前

ご住所　〒

TEL

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.22.A0Ae

編集委員長
今田 高俊　東京工業大学 名誉教授

編集顧問
海野 道郎　東北大学 名誉教授
髙坂 健次　関西学院大学 名誉教授
盛山 和夫　東京大学 名誉教授
平松 闊　甲南大学 名誉教授

編集幹事
石田 淳　関西学院大学社会学部 教授
遠藤 薫　学習院大学法学部 教授
大浦 宏邦　帝京大学文学部 教授
金井 雅之　専修大学人間科学部 教授
小林 盾　成蹊大学文学部 教授
佐藤 嘉倫　京都先端科学大学人文学部 教授
数土 直紀　一橋大学大学院社会学研究科 教授
瀧川 裕貴　東北大学大学院文学研究科 准教授
辻 竜平　近畿大学総合社会学部 教授
内藤 準　成蹊大学文学部 准教授
浜田 宏　東北大学大学院文学研究科 教授
三隅 一人　九州大学大学院比較社会文化研究院 教授
与謝野 有紀　関西大学社会学部 教授

数理社会学会設立35周年記念出版

数理社会学事典

数理社会学会 数理社会学事典刊行委員会 編

A5判・786頁
定価24,200円(本体22,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30665-9

編集委員
池 周一郎　帝京大学文学部 教授
大林 真也　青山学院大学社会情報学部 准教授
小田中 悠　東京大学大学院情報学環 助教
籠谷 和弘　関東学院大学法学部 教授
金澤 悠介　立命館大学産業社会学部 准教授
毛塚 和宏　東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 講師
笹原 和俊　東京工業大学環境・社会理工学院 准教授
七條 達弘　大阪府立大学経済学研究科 教授
篠木 幹子　中央大学総合政策学部 教授
関口 卓也　国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター 研究員
竹ノ下 弘久　慶應義塾大学法学部 教授
寺野 隆雄　千葉商科大学基盤教育機構 教授
中井 豊　芝浦工業大学システム理工学部 教授
長松 奈美江　関西学院大学社会学部 准教授
藤原 翔　東京大学社会科学研究所 准教授
藤山 英樹　獨協大学経済学部 教授
前田 豊　信州大学人文学部 助教

(五十音順)※所属・肩書きは2022年3月現在

最新情報・詳細は
こちらから↑
丸善出版ホームページへ

丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちらから
MeL Maruzen eBook Library / KinoDen Kinokuniya Digital Library / LibrariE TRC-DL / KW Knowledge Worker / UNIV. Co-op / honto / Kindle
丸善出版ストア

刊行にあたって（一部抜粋）

数理社会学事典の刊行は私の知る限り世界で初めての試みです．数理社会学が制度化されたのは，1950年代初頭のアメリカにおいてだと言われています．日本はその後塵を拝する形で研究を進めてきました．しかし，世界に先駆けて事典を刊行できたことは，誇りにしてよいと思います．

日本で数理社会学会が設立されたのは1986年3月です．それ以来すでに35年余の研鑽を積んできたことになります．世代継承も順調に進んでおり，今後の発展が大いに期待されます．事典を刊行する機が熟したと言えるでしょう．

手本がない状態で事典構成を考えることは，とても悩ましい問題でした．事典としての条件を考えるとき，数理モデルと社会学の双方の視点から体系的に俯瞰できるものにする必要があります．これまで数理社会学のモノグラフや教科書は多数出版されていますが，そこで利用されている構成枠組みは，使用される数理モデルによる分類か，階層や家族や組織など実質分野による分類に依拠しており，数理社会学の全体像を俯瞰するものにはなっていません．

およそ半年間，様々に思案を重ねた結果，数理モデルと実質分野を統合するとともに，入門部門にあたる総論（第Ⅰ部），原論部門にあたる基礎論（第Ⅱ部），各論部門にあたる社会学の実践編（第Ⅲ部），他分野で主に展開されてきた数理的手法との連携にあたる応用編（第Ⅳ部），そして社会学の古典や原理にかかわる重要テーマをアドホックに扱った特論（第Ⅴ部）の五部構成を採用することにしました．各部の章構成を見ていただくとわかりますが，実践編での実質分野の数が限定的である点を除けば，東京大学出版会の『社会学講座』シリーズに近い構成になっています．今後，数理社会学の進展により，実質分野のさらなる拡充が期待されるところです．

ところで，数理社会学は理論社会学の一員であるというのがおおかたの合意事項です．しかし，社会学は経験科学でもあり，経験的データによる実証性の確保が不可欠です．このため，数理社会学は計量社会学と緊密な連携を保ってきました．また，数理社会学は計量社会学（社会統計学）を基礎として生まれたという歴史的経緯があります．本事典ではこうした側面にも配慮して章立てや項目選択を行いました．さらに，21世紀に入って以降，コンピュータ技術の飛躍的な発展に伴い，ビッグデータやAI（人工知能）などを含む計算社会科学やシミュレーションの新たな手法が登場して，数理社会学との連携の期待が高まっており，こうした動向にも目配りをしました．

2022年6月

編集委員長　今田 高俊

目　　次

刊行にあたって／編集委員一覧・執筆者一覧／目次／見出し語五十音索引／凡例

第Ⅰ部　総論

第1章　数理社会学とは何か
数理社会学とは何か／数理社会学の諸目的／フォーマライゼーションの意義／数理モデルとは何か／数理モデルとメカニズム／数理モデルと計量モデル／数理社会学とリアリティ

第2章　数理社会学の歴史と未来
数理社会学前史／黎明期1950年代／興隆期1960〜70年代前半／展開期1970年代後半〜世紀末／ 21世紀の新潮流／日本の数理社会学の歴史と展開／社会学史のなかの数理社会学

第Ⅱ部　基礎論

第3章　合理的選択理論と行為の数理
合理的選択理論とは何か／期待効用最大化モデル／合理性をめぐって／合理的選択についての行動モデル／合理的選択理論と社会学的行為論／ミクロ-マクロリンクと合理的選択理論／合理的選択理論とゲーム理論／合理的選択理論と社会ネットワーク分析／合理的選択理論と分析社会学／合理的選択理論に対する批判とその問題点／合理的選択理論の応用例

第4章　ゲーム理論と相互行為の数理
ゲーム理論と数理社会学／ナッシュ均衡と自己拘束性／展開形ゲームと逐次合理性／不完備情報ゲームと逆選択／繰り返しゲームと長期的関係／進化ゲーム理論と社会科学／囚人のジレンマと互酬性／スパイト行動と空間構造／ N人ゲームと社会的ジレンマ／秩序問題と二次ジレンマ／協力ゲームと提携集団／投票ゲームと影響力

第5章　決定論・確率論と社会過程の数理
決定論・確率論のモデルとは何か／ダイアド・モデルとその安定条件／軍拡競争のモデル／集団内の相互作用と親密性のモデル／社会的態度変容の確率モデル／ポアソンプロセス・モデル／伝播・普及のモデル／カタストロフィー・モデル／カオス・モデル

第6章　ネットワーク理論と社会構造の数理
ネットワーク理論とは何か／ネットワークの要素とその基本的な数学的定義／ネットワークデータの収集をめぐる諸問題／二者関係と三者関係／中心性と中心化, 卓越性／サブグループの分割／ネットワーク上の位置と役割／ネットワークに関する統計的手法／組織とネットワーク／社会関係資本／社会システムへの信頼／大規模ネットワーク／インターネットを介した関係

第7章　社会的選択理論と決定の数理
社会的選択理論とは何か／コンドルセの陪審定理／アローの一般可能性定理／センのリベラルパラドクス／戦略的操作とギバード＝サタスウェイトの定理／平等と分配的正義／判断集計／合意形成の数理／集合的意思決定への実験アプローチ／社会的選択理論と理論社会学（権力論と秩序問題）／社会的選択理論と理論社会学（機能主義をめぐる問題）

第Ⅲ部　実践編

第8章　職業と労働分野の数理モデル
入職における実績関係／昇進における空席の連鎖／昇進とソーシャル・キャピタル／転職における弱い紐帯の強さ／交換と権力／社会的地位としての職業／分断労働市場／構造的空隙／性別職域分離

第9章　教育と進学分野の数理モデル
ブードンによる教育機会のモデル／相対リスク回避モデル／維持される進学の格差／学力試験と進学モデル／シグナリング・モデル／学歴の因果効果の異質性

第10章　階層と不平等分野の数理モデル
階層帰属意識／居住分離／統計的差別／社会移動モデル／所得分布モデル／資産格差とその趨勢／不平等生成要因としてのレント／マネーの統計力学モデル／搾取の数理モデル／地位階層制モデル

第11章　家族と結婚分野の数理モデル
恋愛と結婚／結婚関数／性別役割分業／出産（再生産）／出生力低下／世帯

第12章　地域と環境分野の数理モデル
社会的ジレンマの実践的課題／共有地の悲劇／コモンズ問題／互恵的システムと地域再生／環境汚染のフリーライダー問題／環境配慮行動のメカニズム／信頼と協同／コミュニティ形成のダイナミクス

第13章　幸福と福祉分野の数理モデル
相対的剥奪のモデル／不平等と相対的剥奪／幸福のパラドクス／不平等と再分配／貧困／福祉とケイパビリティ／年金問題の数理／健康と格差

第Ⅳ部　応用編

第14章　社会シミュレーションと数理社会学の連携
社会シミュレーションとは何か／社会シミュレーションの類型／モンテカルロ法／セルラオートマタ／システムダイナミクス／エージェントベース・モデル／生成的モデリング／アクセルロッドの戦略対戦／カウフマンのNKモデル／社会シミュレーションにおけるネットワーク・モデルの役割／人工市場／参加型シミュレーション／ゲーミング・シミュレーション／社会シミュレーションの評価／社会シミュレーションと文理融合

第15章　計算社会科学と数理社会学の連携
計算社会科学とは何か／テキスト分析（テキストマイニング）／デジタル実験／ビッグデータ収集／デジタルサーベイ／オピニオンダイナミクス／拡散・伝播モデル／意味のモデル／社会的影響力・マタイ効果モデル／AIと社会

第16章　計量社会学と数理社会学の連携
計量社会学と数理社会学の連携／統計的因果推論のモデル／一般化線形モデル／ベイズ統計モデリング／質的比較分析／実証分析における誘導型推定と構造推定

第Ⅴ部　特論

第17章　役割と社会規範
社会規範の生成／役割の規範的メカニズム／役割と社会構造／役割知識と役割認識／社会的カテゴリー論

第18章　意図せざる結果と予言の自己成就
公式組織における意図せざる結果と合理性／集合行為と意図せざる結果／うわさの否定がもたらす意図せざる結果／「予言の自己成就」の因果メカニズムと合理性／差別における予言の自己成就

第19章　古典理論の数理化
古典理論の数理化／テンニース：ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの構造／ジンメル：三人集団の形式／デュルケム：分業と連帯／ウェーバー：宗教倫理と資本主義の発達／パーソンズ：役割期待の相補性とバランス／ホマンズ：社会的交換／ゴッフマン：儀礼的無関心／レヴィ＝ストロース：親族の基本構造

和文参照・引用文献／欧文参照・引用文献／事項索引／人名索引